総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和3年度)

2. 分野別状況 (2)地域活性化総合特区 ③アジア拠点化・国際物流分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
ながさき海洋・環境産業拠点特区 (長崎県、長崎市、佐世保市、西海市)	2.7	2.2 進捗度 ・県内造船所による高付加価値船・省エネ船の建造量 75% ・県内造船所による環境関連機器の取扱件数 50% 等	3.4 財政支援等 ・燃料電池船技術評価FS事業 地域独自の取組 ・ものづくり支援補助事業 ・海洋エネルギー関連産業集積促進事業 等	2.5	<p>・評価指標(1)と(2)のいずれも、韓国・中国による低船価の煽りで県内主要造船会社3社のうち2社が新規造船事業の縮小・撤廃となったことが大きく影響しているようであり、そうすると、今年度のみならず来年度の目標達成もかなり厳しいものになると危惧される。特に建造量に関しては、減少傾向にあるだけでなく、初年度である平成29年度の実績値を大きく下回っている。厳しい状況にあることは理解するが、目標達成に向けてどのような取り組みが可能なのか、再度、具体的にしっかり検討してほしい。また、評価指標(3)に関しては、当初からほとんど増加が見られず、設定した目標に対して何が足りていないのか明確にした方がいいのではないかと感じる。浮体式洋上風力発電を建造中とのことで、今後、このウインドファームによる発電が期待されるが、いつから稼働予定なのかを含め、今後の見通しを可能な範囲で説明してほしい。</p> <p>・全体として目標未達である項目が多く、その原因として外国(特に、中国および韓国)との競争激化が挙げられているが、同要因は計画当初から分かっていることであり、それが故に長崎が優位性を持つ高付加価値船・省エネ船に活路を見い出すべく、本プロジェクトが立ち上がったものと評者は理解しております。よって、原因としてはどうして高付加価値船・省エネ船の需要喚起および売込みが上手く行っていないのかをより明確にして頂くと今後の方針に役立つと思います。一方で、ロシアによるウクライナ侵攻によって、再生エネルギーの重要性が急激に高まる中、五島市沖浮体式洋上風力発電ウインドファームが運転開始に向けて着実に進んでいることは朗報である。風力発電一般については近年では中国が先んじている模様であるため、本プロジェクトの更なる拡張・発展に期待したい。</p> <p>・評価指標(1)(2)の高付加価値・省エネ船の新造船建造量、環境機器取り扱い件数はともに同様の傾向で推移しており、主要企業の新造船の縮小の動きに左右されているように見える。高付加価値・環境対応への新しい強みのある造船業へのシフトを測るという点では、今後の課題として、これら指標の再検討が必要になってきているように思う。依然として造船業の競争環境が厳しいなかで、国際的な温室効果ガス排出規制の強化に向けて技術的優位性を継続・発展させていく取り組みの重要性は高い。規制の特例措置のさらなる積極的な活用や、海洋再生エネルギー関連企業との連携という本特区の特性に基づいた国内外の環境関連企業の積極的な誘致などで、技術的優位性、人材育成やサプライチェーンの維持・拡大の試みが期待される。</p> <p>・海洋エネルギーという未来への貢献が大きな分野であるので、現状では高いリスクのもとで行っていることは否めないが、もう少し進捗が見えることが望ましい。</p>